



JAAP写真展 公募作品募集

Photography by Hiroshi Seo

日本航空写真家協会（JAAP）では、写真展「SKY GRAFFITI 2019」を開催します。これは、航空を活動の場とするプロ写真家の、2年に一度のグループ展です。

会期は、2019年9月20日の「空の日」を含む1週間が内定しています。このことは、回を重ねるごとに一般公募作品に優秀作が多く集まり、ご観覧いただく皆様が増え、注目される写真展になってきたためだと感謝しております。

会場は富士フィルムフォトサロン東京・スペース2となります。大阪展につきましては、現在日時を調整中で、近くお知らせできると思います。

今回も一般の飛行機写真愛好家の作品を募集し、審査の後、優秀作を展示しますので、ぜひとも力作をお寄せ下さい。この写真展は多くの方々に「飛行機を撮る」面白さや素晴らしさをお伝えできるよい機会だと思います。

展示作品は、JAAP会員・会友と同じサイズの写真で展示します。以下の応募要領にしたがってご応募ください。

応募作品のサイズは、A4サイズのプリントとします。展示作品は特段の意図がないかぎり、基本的に縦横比率を2:3のフォーマットとします。通常のデジタル一眼レフカメラのファインダーと同様です。それに従い、応募作品についても、若干の余白があつてもかまいませんので、この比率でプリントしていただけたら幸いです。

すべての作品の裏面には、専用の応募票を添付してください。応募票はJAAPホームページ内にあるPDFファイルをダウンロードし、それをプリントアウトのうえ、必要事項を記入し、下記宛にお送りください。なお、応募作品は返却いたしませんので、ご了承ください。

展示作品に選ばれた方には、JAAP事務局からお知らせしますので、CDなどに焼き込んだデジタルデータ、もしくはオリジナルのフィルムを改めて事務局へお送りいただきます。デジタルデータの必要事項につきましては、入選通知とともにお知らせしますが、プリントサイズの関係上、長辺で4,000ピク

セル（200dpi長辺500mm）が最低限必要となります。

展示プリントのサイズは全紙です。制作費についても会員・会友と同じ扱いで、入選者のご負担とします。

プリント制作は、国際規模の写真展などのプリントを多数手がける専門ラボに依頼し、制作管理はJAAPが行ないます。その費用は、プリント（ラムダ・クリスタルプリント）+額装用マット（額サイズ裏打ち・画像面抜き）+展示写真返送料など合計22,000円程度となります。

オリジナルのフィルムについてはプリント作業終了後に、展示プリントにつきましては、写真展終了後にお返しいたします。CD等デジタルデータは返却いたしません。

なお、写真展会場で使用する額は、会場に備え付けのものを使用するため、額をご希望の応募者には、後日等寸の額をご案内します。

優秀作として例年選ばれる方につきましては、例年若干名の

会友への推举があります。会友の作品については、その作家性の高さを認め、JAAP展では無鑑査で展示しています。

どうぞ奮ってご応募下さい。

応募作品送付先：

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町12-9

(株)和航 内 JAAP事務局

TEL 03-3464-7859

応募サイズ：A4プリント

応募点数：一人5点以内

応募締切：5月31日

応募作ご送付はゆうパックが確実です。

合同審査会

写真展参加者全員で写真展を作るという観点から、今回も合同審査会を行ないます。

合同公開審査会は、6月15日（土）午後に東京浜松町で、



[左] 香港景観山から見たWGAの747F。D5 500mm, f/5.6 1/30, M, +0.3, ISO8000

[右上] 日没ころの「微光の成田」。D5, 24-70mm (26mm), f/2.8, 1/250, S, ISO1600

[右下] 朝の煌き。D5, 800mm + TC800 (1000mm), f/8, 1/500, S, +1.0, ISO1600



[上] 新田原航空祭 2018 305SQ の予行。D5, 500mm + TC14 (700mm), f/7.1, 1/1000, S, +0.3, ISO200

[右上] 「谷の戦闘機」、米国デスバレーの谷を潜りぬける FA-18E。D4, 500mm, f/4, 1/1000, S, -0.3, ISO200

[下] 「微光の成田」、日没の A380。2020 ドバイ万博記念塗装機。D850, 70-200mm (135mm), f/7.1, 1/320, S, +0.7, ISO200

[右下] 「微光の成田」、画像補正にほとんど頼らなかった、ほぼ素の画像。D5, 58mm, f/1.4, 1/100, S, +0.3 ISO3200

応募者のうちの希望者とともにに行ないます。定員は 30 人、参加者には 3,000 円の会場費をご負担いただきます。参加希望者には、JAAP から開催場所・開催時刻についてご連絡いたします。

合同公開審査会では、なぜこの作品を選ぶのか、参加者とともに討論しつつ、セレクトを進めます。その作品の骨格、意図や着想を探り、その作品の長所・見所は何か、あるいはネガティブな要因・要素は何か、そこを克服・修正するにはどうしたらよいか、を語りつつ応募作を見ていきます。作品の撮影者は、その場で自らアピールポイントを語ってもらってもよいし、JAAP の方から質問もします。

ある程度のトリミングや新たな画像補正をすれば見える訴求力を持つものについては、JAAP 会員が持ち帰って作業する、といったことも行ないます。撮影者と大きな画像のやりとりを行なうので、応募票のメールアドレスについては、それが可能な PC のアドレスにしてください。

このように合同審査会は、一般的なコンテストとはまったく異なる勉強会と考えています。

最終選考は合同審査会終了後の 1 週間に内に、JAAP で行ないます。展示内定者にはその後ただちにお知らせしますので、写真展展示用画像データのご提出をお願いします。なお、展示プリントの制作管理については、一切を JAAP にお任せいただきます。

また、写真展にかかる JAAP の活動については随時、JAAP ホームページや Facebook でお知らせしてまいります。

なお、合同審査会終了後は参加者とともに懇親会を予定しています。懇親会ではいつものようにスライドショー大会を行ないます。作品発表を相互に行い、刺激し合い、熱を帯びて圧倒されることも頻繁で、大変よい勉強の機会かと思います。

新企画テーマ別写真展

JAAP の分科会といえる第 1 回のテー



マ別写真展「Big Sky Hong Kong」を昨年東京銀座で行い、大変ご好評をいただきました。

この写真展の拡大版図録というべき写真集も登場します。A4 变形横綴じカラー 128 ページ以上の写真集になる予定で、参加撮影者は 14 人。現在鋭意編集中です。

さらにテーマ別の第 2 回展は、20 年 1 月下旬に「谷の戦闘機」というテーマで東京新宿で行ないます。米国デスバレーや英國ウェーブズの谷間を飛ぶ戦闘機を展開したいと考えています。詳細が決まりましたら改めてご案内します。

さらに第 3 回展として、2020 年 12 月開催予定で、光の汽水域「微光の成田」展の撮影が、10 数人のグループで進行中です。撮影場所・撮影時刻を（日出の前後 30 分間および日没前後 30 分間）に限定した中身の濃い写真展となる予感がしています。なぜ場所限定時刻限定の作品を募集するかといえば、ここが克服できればオールラウンドに飛行機写真撮影術が向上するはずだからです。

「微光の成田」の撮影にご参加なさいませんか？ 成田は LCC の集結点でもあり、地方からの参加もハードルが低いのではないかと思いますし、羽田と異なり

0600 時運用開始の門限もあります。参加ご希望の方は、JAAP 会長 (airworks@mua.biglobe.ne.jp) までご連絡ください。この会専用のクローズドの Facebook にご招待します。この場では、各種作例作品の展開や意見交換が日々行われています。また、機会をみて撮影会を行なったり、時には一堂に会してスクーリング（座学講習）を行うことも計画しています。その過程で得られた成果については、もちろん次回展「SKY GRAFFITI 2019」への応募作とされてもかまいません。

ご注目下さい。

